

阿波公方列伝 (2)

14代室町幕府将軍 足利

よしひで
義栄

文化振興課 森脇 佳代子

14代室町幕府将軍・足利義栄は、阿波公方一族の中で、唯一、正式な将軍になった人物です。

初代阿波公方・足利義冬の長男で、阿南で生まれ、阿南で育った将軍です。お墓も阿南の西光寺(那賀川町)にあります。

実際に将軍になっているので、「〇代阿波公方」という呼び方はされませんが、阿波公方家から誕生した将軍として、阿波公方を語る際には外せない人物です。ちなみに、義栄は病気により31歳の若さで亡くなっており、義栄の弟、義助が2代阿波公方になっています。

織田信長のひとつ前の時代、阿波出身の三好一族が畿内を席卷していた時代の話です。義栄の父である義冬は堺(大阪)において、あと一歩のところまで正式な将軍になれませんでした。義冬を支えてくれていた三好氏と細川氏が分裂してしまったた

め、一旦徳島の平島(那賀川町)に身を潜め、チャンスをおかがつていました。何度か、三好氏から義冬に対して畿内に来ないか打診があったり、義冬自身も再度堺に進出したりしたので、タイミングが合わず、うまくいきませんでした。そうこうしている内に、13代将軍・足利義輝が三好氏らに殺されるという大事件が起きます(永禄の変)。義冬が将軍になる大チャンスがやっと到来しました。

しかし、ここで問題が起きました。義冬は病気(中風)にかかり、体が自由に動かなくなっていたのです。ここで次の将軍候補として、白羽の矢がたつたのが義冬の長男・義栄でした。

永禄9年、空席となった将軍に就くべく、義栄は畿内に進出します。義栄のサポートは、三好氏の重臣、篠原長房が力強くしてくれました。

ライバルの存在もあつたため、義栄は京都には入らず、富田(大阪府高槻市)を拠点としました。そのため「富田武家」と呼ばれていたようです。そしてようやく1年半の歳月を経て、永禄11年(1568)、義栄は無事将軍職に就くことができました。父の義冬や阿波の人々の長年の願いがやっと叶えられた瞬間でした。

ただ、この栄華も長くは続きませんでした。織田信長を味方につけたライバル、足利義昭(義輝の弟、15代将軍)が上洛してきたのです。同時に義栄は重い病気(腫物)にかかっていた。信長の破竹の勢いに、重い病の義栄方は抵抗することもできず、義栄はそのまま病気で亡くなりました。将軍在任期間は、室町幕府将軍としては最短の7カ月間。将軍としての在位はごく限られた時間で、またすい星のようにはかなく散った人物であります。その一瞬は確実に戦国乱世の重要な歴史の舞台に刻まれています。

おさらい

「阿波公方」は、室町時代末期の初代から江戸時代後期の9代まで、阿南市那賀川町に住んでいました。ここでの「公方」は「将軍家」を意味します。室町時代の将軍は足利一族から輩出されており、その中で阿

波に暮らす足利一族の当主のことを「阿波公方」と呼びます。そして、「阿波公方」の呼称は江戸時代を通じて使われました。



足利義栄
(阿波公方・民俗資料館蔵)



織田信長



足利義昭

問い合わせ
文化振興課

☎ 22-1798